



トピックス

令和元年10月2日

NO.85

～10月 全校朝会での話～

2日（水）の全校朝会では、理科作品展と市民水泳大会に関する表彰式があり、5名の児童がステージに上がりました。その後、今回の話として、「ものを大切に！」ということで鉛筆の話をしました。おおよその内容は、以下の通りです。

ちょっと昔のことですが、ある国では、子どもたちが鉛筆をとっても大切に使っているという話を聞いたことがあります。その国の子どもたちは、鉛筆1本でも高く買って買えない家がたくさんあるそうです。だから学校から1本の鉛筆をもらって、芯がなくなるまで大切に使うそうです。短くなって使いにくくなると、自分で竹をわって紐で縛り鉛筆補助器具を作るそうです。

鉛筆は、今から460年位前にイギリスで作られたのが始まりです。黒鉛を細長く削り木で囲むという簡単な構造で作られ、持ち運びも便利な道具でしたから、あっという間にイギリスの国内や他国へと広がっていきました。日本でも、江戸時代に伝わると徳川家康や伊達政宗も使ったと言われていますが、他国から送られたもので、かなり貴重なものでした。それが明治時代に入ると、鉛筆工場が建てられたことで、普通の人の手に届くものではなかった鉛筆が仕事場や学校でも一気に使われるようになったということです。

ではここで問題です。鉛筆一本で鉛筆がなくなるまで、どのぐらいの線が書けるのでしょうか？なんと芯を全部使うと50kmも書けるそうです。50kmというと、上本郷小学校から3年生が校外学習で行った「房総のむら」までと同じ距離です。たった1本でも線を引くと、すごいです。そして、鉛筆は、シャープペンやボールペンと違い、簡単な構造で故障することもなく、雨や寒さ・暑さの中でもしっかりと書くことができます。

皆さんは、そんな便利な鉛筆を大切に使っていますか？校長先生も、鉛筆を大切に使おうと、特別な鉛筆削りで削って、短くなった2本の鉛筆をつなげて使っています。物を大切に使うというのは、一人ひとりの心にとっても大切なことです。鉛筆だけではなく、みなさんがいろんなもの身の回りにある物を無駄遣いせず、大切に使うという気持ちを持つと、ちゃんと使われる物たちもしっかりと最後まで仕事をしてくれるのです。学校でも家でも。

こんな話をしました。

